

「精神と行動の障害」のアドバイザー・グループの動向

第 9 回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会委員

東京医科大学精神医学講座

飯森眞喜雄

09 年秋、「ICD-10 精神および行動の障害のための国際アドバイザー・グループ (International Advisory Group for the Revision of ICD-10 Mental and Behavioral Disorders) : AG」の下部組織として「Formative Field Study Coordinating Group」が組織され、今後、改訂の中核的な役割を担っていく方針である。このグループにはメキシコ、米国、ブラジル、フランス、スペイン、ナイジェリア、中国、インドおよび日本の 9 ケ国が含まれている。

前回の AG 会議で、より専門性の高い知識が必要とされる分野として「児童および思春期の精神障害」「知的および学習障害」「パーソナリティ障害」「物質関連障害」および「プライマリケア」の 5 つが挙げられ、それぞれワーキング・グループを組織することが決定されたが（第 9 回本委員会にて報告）、その後、WHO より AG メンバーを通じて各ワーキング・グループの適任者を推薦するよう要請があったため、関連学会を通じて推薦し WHO へ履歴書等を送付した。現在、人選が行われている模様だが、日本から選出されるかは不明。

上記の「Formative Field Study Coordinating Group」では、ウェブサイトを用いて行われる、二つの精神障害間の近似性を評価する「Study A」と呼ばれる研究と、60 の精神障害を仕分けする「Study B」と呼ばれる研究とが準備されており、ICD-11 の Clinical Utility の向上へ向けて世界規模の調査研究が行われる予定である。

また、世界精神医学会 (World Psychiatric Association: WPA) より日本精神神経学会に ICD-10 の使用状況に関するアンケート (WHO-WPA Survey) を施行するよう要請があったため、アンケートの最終版が完成次第、この調査にも参加する予定である。

次回、AG会議は2010年6月21～22日にWHO本部で開催予定である。